

津山郷土博物館だより【つはく】

津博

TSUHAKU

2012.9
NO.74

■トピックス

夏の学習プログラム
弥生土器をつくろう / カルメ焼きをつくろう
トンボ玉をつくろう / 勾玉をつくろう

■資料紹介

中村家寄贈資料のご紹介 杉井 万里子

■研究ノート

天保期の国絵図の作成過程について
— 諸日記の記述から — 梶村 明慶

■お知らせ

平成24年度特別展
江戸一目図屏風の関連グッズ
津山景観図屏風展示



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

گرام

夏休み恒例の「夏の学習プログラム」を開催しました。弥生土器をつくろう・勾玉をつくろう・トンボ玉をつくろうに加えて、この夏より「カルメ焼きをつくろう」がNEWプログラムとして仲間入りしました。弥生土器づくり23名、勾玉づくり80名、トンボ玉づくり37名、カルメ焼きづくり17名、計157名の参加で、にぎやかな夏を過ごしました。

カルメ焼きをつくろう 7/27(金)

■向陽小6年 大内新菜さん

私はカルメ焼きを作ろうに応募して当選した。とってもうれしかった。私は、初めての経験だったので、どうしたらいいか分からなかった。先生達に色々教えてもらって作れた。温度計が熱くなりすぎて、やけどをした。痛かった。とってもヒリヒリした。初めてやけどをしたので、どうすればいいか分からなかった。だから、がまんをした。やけどをしたけど、とってもおいしいカルメ焼きができた。やけどをしたかいがあったと思った。こうやってカルメ焼きが作られてるんだと思った。

6年生だから来年はもう出来ないけど、ボランティアとして行きたいと思った。



砂糖水の温度を125℃まで上げていきます



力いっぱい、一気にかきまぜます



カルメ焼き大成功!!



弥生土器の見学「どんな土器にしようかな？」



焼き上がり。まだ素手で触るのは熱すぎるよ!

■弥生小6年 石原健成くん

最初、研修室に入って席に座ると、前に座っていた大前君と河本君に会いました。最初気まずいふんいきだったけど、一緒に作っていると話しくなると、協力できるようになりました。協力してくれたおかげで、きれいに面白い模様のつぼが出来ました。ほくは、つぼとはちと土笛を作りましたが、一番大変だったのがつぼでした。最初広げていたけど、後からちぢめていく所がむずかしかったです。土器を焼く手伝いはあまり出来なかったけど、まきをくべる手伝いをちょっとただけで、すごい熱かったので、火を燃やす手伝いをしなくて良かったと思いました。火おこし体験もしたけど、全然火がつかなくて、火をおこすのがこんなに大変なのかと思いました。昔の人の生活はこんなに大変なのかと思いました。この体験で色々なことを学ぶことが出来て良かったと思いました。



無事焼き上がって…ホッ。



夏の学習プロ

弥生土器をつくらう

7/25(水)・8/16(木)

■一宮小6年 堀内一生くん

粘土をこねて皿や笛などをつくったりして、むずかしかったけど、ちゃんと出来てよかった。火の周りからだんだん中によせて行って、最後には火の中央にのせた。ちゃんと焼けてほしいと思った。焼いている時は、火をおこしたり、見学したりして楽しかった。火おこしはがんばって、ちゃんと火が作れた。火をおこすだけでも大変な事がよくわかった。見学もよくわかった。色々楽しかったです。ありがとうございました。

■南小6年 西田健希くん

土器づくりは最初はむずかしいのかなと思ったけど、やってみるとまあまあかんたんでした。最初に粘土をさわるとベトベトで、粘土の色の茶色がついて気持ち悪かったです。ぼくは、自分にしたら良く出来たなと思いました。野焼きは近くによっただけでも熱くて、土器を置くのが大変でした。焼いている土器が真っ黒でこげたのかと思ったけど、「こげてないから大丈夫。」と言われて安心しました。土器づくりはすごく楽しかったです。



■北小5年 俣野翔太くん

粘土をさわった時は、変な粘土だなと思いました。粘土の名前は「セラミド粘土」でした。赤茶色っぽい色をしている粘土でした。まず、土台を作って、ひもを作って、重ねて間をなくしました。それが皿です。それと同じように、つぼも作りしました。それから、土笛も作りしました。そして、今日野焼きをしました。風がこちらに吹くと、熱風が来て、とても熱かったです。木をどんどん入れて、炎が大きくなりました。土器を見ると、真っ黒になっていました。とても楽しかったです。またやってみたいです。

■勝間田小6年 佐古壮汰くん

土器づくりはむずかしかったけど、楽しかったです。手がよごれながらもがんばった。弥生人もこうやって作っていることがわかった。土器の形を作るのががんばった。野焼きはとてもあつくて、土器をさわるとあつかった。土器は黒くなっていて、かたそうでした。とてもいい勉強ができて、とてもいい体験ができた。弥生時代のことがよくわかった。



火おこしにチャレンジ。
見事、火がつかました！



「あつい〜!!」

■北小5年 坂手悠太朗くん

粘土でつぼや笛、皿などを作れてとても楽しかったです。形を何にするか、どれくらいの大きさにするか、いろいろまよったけど、いい作品ができました。うれしかったです。焼いている所を見てみると、3mぐらいはなれていても、熱い炎の中に黒こげの土器がありました。どれだけ長い時間焼いたのかなあと、思いました。焼き終わった土器を早く見たいと思いました。

■高野小6年 保田紗也加さん

6年生になって歴史を習い始めたけど、弥生時代や土器を中心に改めて知ることが出来た。粘土は好きではないけれど、作るのが楽しかったです。私は高杯を作りました。でも、途中でこわれてしまったので、少しあきらめかけてしまいました。でも、直してくれたおかげでいい作品ができたと思います。土笛では、いい音が出なかったけど、また家で練習したいと思いました。焼く前に土器を火の周りに置いた時、とってもあつかったです。火おこしでは、とっても手がつかれて、もう神経がなくなりかけました。新しい友達が出来たし、弥生土器を作るのが楽しかったです。

■弥生小5年 黒瀬修吾くん

昔の人のアクセサリーがこんなにきれいなものだったとは知らなかった。ガスバーナーをつける時、火が「ポッ」とついたので、少しこわかった。とけたガラスを、鉄の棒に巻きつけるのがむずかしくて少し失敗してしまった。



最初はこわいわ。しっかりガラス棒を溶かします。

■弥生小5年 出水清崇くん

トンボ玉は、ガスバーナーと細い鉄の棒と色のついたガラス棒で作りました。となりの人と協力してやりました。二つ失敗しました。難しかったけど楽しかったです。でも、巻きつけるのが難しかったです。またやりたいです。

■北小5年 高谷光希さん

私は、最初トンボ玉ってなんだろうと思いました。説明を聞いてよくわかりました。楽しそうと思っていたけど、作るのとっても難しかったです。でもなれたら作るのが楽しくなって、とてもきれいに出来ました。でも、失敗したのもありました。お母さんにあげたら、お母さんがよろこんでくれたので、私もうれしかったです。

■佐良山小6年 河本伊織くん

トンボ玉は、ガラスの棒をバーナーで溶かすところが一番難しかったです。時々ガラスがわれたり、鉄の棒にガラスの溶けたやつがついたりして、失敗しました。けど、4個作れたので良かったです。

トンボ玉をつくらう
8/7(火)・8/8(水)



溶けたガラスを巻き取ります。「あせらずゆっくり。」

勾玉をつくらう
7/31(火)・8/1(水)

■北小5年 俣野翔太くん

まず、石に思い通りの勾玉の絵を書きました。そして、それに合わせて、糸のこで切りました。そして、あまった部分を、紙やすりでけすって作りました。そして、耐水ペーパーでみがいて、ハンカチでみがいて、つやが出るまでみがきました。勾玉の絵を書いたのが一番むずかしかったです。

■弥生小5年 出水清崇くん

まず、石をやすりでけすりました。けするのはかんたんでした。次に別のやすりで、キズをなくしました。でも、なかなか消えにくかったです。最後に、耐水ペーパーできれいにしました。上手に出来たら良かったです。

■北小5年 高谷光希さん

私は、勾玉を作ったことがあったので、だいたいの作り方はわかっていました。でも、紙やすりでけするのは難しかったです。きれいなのが出来て良かったです。



作り方を聞いてそれぞれ形を決めたら始めます。



滑石に下書きした形にそって、サンドペーパーで削っていきます。どんな勾玉が出来るかな？

こんな感じ…？



寄贈資料のご紹介

田熊の和算家として有名な中村景美（周介）とその兄の孫である嘉芽市に関する資料を寄贈していただきました。和算とは日本古来の数学のことで、和算という名称は明治になって輸入された西洋数学と区別するためにつけられたものです。

中村景美（周介）は寛延3年（1750）勝北郡田熊村の医師中村宗盈和尚の二男として生まれ、医師修行の傍ら津山藩お抱え絵師狩野如林（乗信）

に就いて絵画を学びました。資料の中には、練習画や、如林から周介への書状が残されています。その後京都へ上ると、医師修行とともに青木正藏のもとで和算を研鑽し、田熊に帰った後は木村軍太忠雄について研鑽を続けました。文政5年（1822）、弟子であり兄の孫である嘉芽市と共同で、和算を駆使し、堀坂村の暗渠開鑿工事を完成させます。この時周介は72歳、嘉芽市は16歳でした。その3年後周介が亡くなる

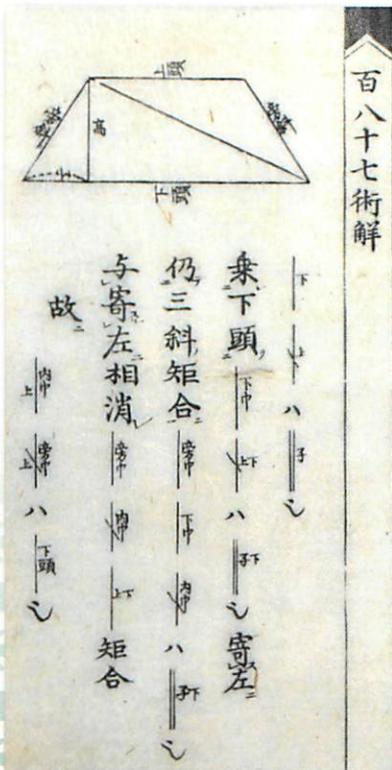


図①…「紫微垣」（しびえん）とは古代中国の天文学で、天を三垣、二十八宿に分けた三垣の一つ。小熊座を中心として、大熊、カシオペアなど北極を囲んだ百七十余個の星から成るもの。

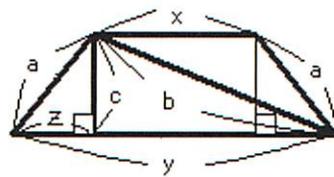
くなると、嘉芽市はより良い師を求めて江戸に上り、和算や天文学を学びました。
 図①は文政9年（1826）に嘉芽市が書き写し、残していたものの一部で、中国の天文学における北極を表したものです。
 嘉芽市は田熊に帰った後、庄屋となりました。
 現在津山市の重要文化財に指定されている田熊の算額は嘉芽市の門人が奉納したものです。

（杉井万里子）

中村家に残されていた『算法点竄指南録 五編下』の内容は？



図②の一頁目の一部



図②…『算法点竄指南録』は文化7年（1810）頃出版された。坂部広胖著。中国で13世紀頃始まり、日本に伝わって和算のもととなったのは天元術である。点竄術（てんさんじゅつ）は天元術では表現しきれない方程式を表すため工夫されたもの。『算法点竄指南録』は五編十五巻あり、点竄術を網羅している。

$y-x=2z$ …術解一行目
 両辺に y をかけて
 $y^2-xy=2yz$ …術解二行目
 三平方の定理により
 $c^2+z^2=a^2$
 $c^2+(y-z)^2=b^2$
 これらにより
 $z^2-a^2=(y-z)^2=b^2$
 $z^2-a^2=y^2-2yz+z^2-b^2$
 $a^2+y^2-b^2=2yz$ …術解三行目
 術解二行目と三行目より
 $y^2-xy=a^2+y^2-b^2$
 $a^2-b^2+xy=0$ …術解四行目
 両辺に x でわると
 $\frac{a^2}{x}-\frac{b^2}{x}+y=0$
 $\frac{b^2}{x}-\frac{a^2}{x}=y$ …術解五行目

天保期の国絵図の作成過程について

—— 諸日記の記述から —— 梶村 明慶

◆はじめに

天保期の国絵図は天保六年に諸大名に対し作成の命令が幕府より下され、天保九年に完成をすることになりましたが、美作国に関しては津山藩がその作成を命じられています。

この国絵図の津山藩での作成過程の様子については各部署の業務日誌である「江戸日記」・「国元日記」・「郡代日記」等を見てみるとその一端を伺うことが出来ます。

そこで、これらの日記から見て取れる絵図作りの様子をご紹介したいと思います。

◆幕府からの作成命令

幕府から津山藩への国絵図作成の命令は天保六年の十二月二十三日に幕府から津山藩の江戸藩邸に通知がありました。江戸日記の同日の条には「元禄之度御絵図写相渡候間、往還并海岸通川筋其外新田村々至迄、不残様當時之模様二右国絵図江懸紙二而直し、尤御

料他領入交候場所ハ其向々江相達置候間夫々及懸合早々取調可被差出候」とあり、元禄の時に作成した写しを幕府から渡され、元禄の時からの変更箇所について掛け紙を貼って訂正して変化が分るようにして提出することになっていたようです。

また、一国の内幕府の天領や、様々な大名の領地が入り混じっている所は幕府からあらかじめ連絡しておくので、それぞれよく話し合って速やかに提出するようにとのことでした。

この点はまさに、当時の美作国に当てはまる点で、当時松平家は十万石に復帰はしていましたが、美作国内には幕府の天領や他の大名の領地が交錯しており、このことが津山藩にとって後に頭痛の種になっていくようです。

◆国絵図の作成開始

江戸藩邸にもたらされた国絵図作成の命令は国元日記によると翌天保七年三月十六日に津山へもたらされます。そして同四月二十三日の条に「田刈

守助 今度従公儀御国絵図御改之義被仰出候付、右取調御用被仰付候」との記述があり「田刈守助」という人が国絵図作成の担当者に命じられています。

この「田刈守助」という人は当時の郡代で領地内の村々を管轄する関係上命じられたのかもしれませんが、

郡代の業務日誌である「郡代日記」を見ると当時郡代所がどのような動きをしているかは分るのですが、残念ながら天保の六・七年について郡代日記

は現存しておらず、天保八年の日記しか確認できません。その天保八年の内容を見ただけでも一月に播磨の明石藩、三河の挙母藩の陣屋があつた坪井（現在の津山市坪井下）、二月には石見国の浜田藩、七月には播磨国の龍田藩と、頻繁に国絵図作成についてのやり取りが行われていることが分ります。

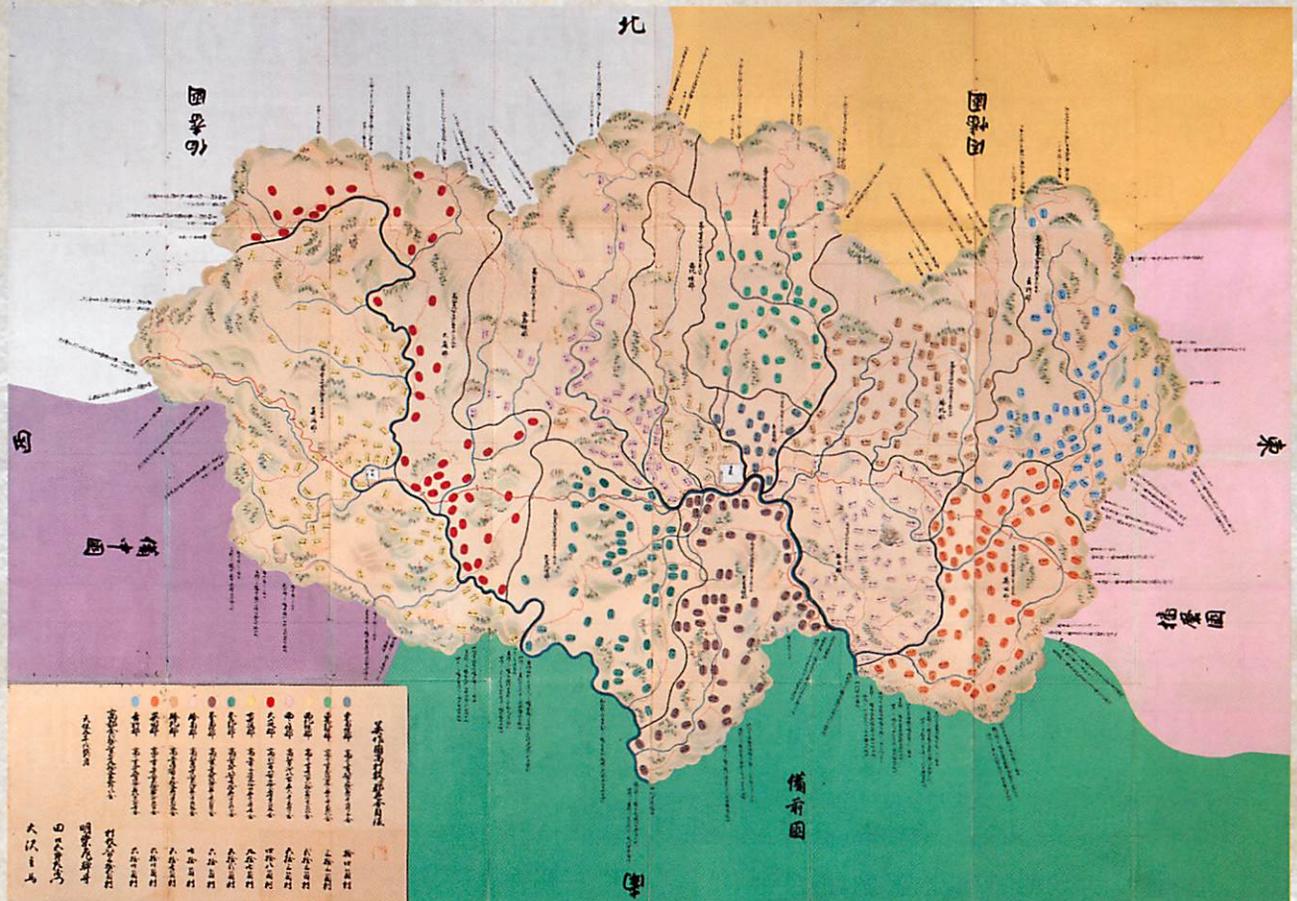
◆幕府からの提出の催促

その後の江戸日記を見ると天保八年二月十一日の記述より幕府から国絵図提出についての催促の記述が見られるようになります。

この日、津山藩の留守居役が幕府の勘定所に呼び出され、「兼而相達置候



元禄国絵図に訂正したものの写しと思われる絵図(部分、個人蔵)



天保美作絵図 (国立公文書館蔵)

国絵図取調早々可被差出候、早々差出候様二も難、被成候ハハ其段可申聞候」と美作国絵図を早急に提出するようにと申し渡されています。

最初にも書きましたが、当時美作国は天領・私領が入り乱れ、これらの領地の調査に関しては手間がかかったようです。

江戸日記六月十二日の条には「領分中者直二茂差出候様出来仕候得共、御領私領入交居候間精々懸合候得共、遠方之義行届兼候付差出候頃合之義難申上旨、兼而申越候、昨日御達之趣尚又早々国許役人共江可申遣候」と津山藩領以外の場所の調査がなかなか進まないことを理由に「絵図をいつ提出できるか分らないと国許が言ってきたので、再度いつ提出できるか国許に確認する。」として回答を先延ばしにしています。

そしてやっと七月に「十月頃迄二者差出候様可相成候之間、夫迄之処御猶予被成下候様仕度奉存候、此段御安置可被下候」と十月までに提出するのでそれまでの猶予を認めるよう幕府に申し出るようになります。

しかし、幕府の回答は「十月迄御猶予被成下候様申上候処八月中御猶予可被成下旨御達之趣思召候」とのことです。八月中しか猶予を認められなかったよ

うです。

八月までしか猶予を認めないといわれたのにも関わらず、江戸日記によると十月十八日の条文に「御留守居兼帯栗原玉城左之通相務之。大手御番所後御勘定所江左通持参。一、美作国絵図七巻一袋」とあり、国絵図を提出した日は幕府からの期限からは三ヶ月も過ぎてしまっていました。

江戸日記には遅延に対する処分の記述はあませんので処分があったのかはわかりませんが、ようやく十月に津山藩の国絵図作成事業は完了しました。

◆おわりに

津山藩の諸日記をみると国絵図づくりは、早々の提出を求める幕府と中々進まない他領との折衝と間に挟まれて苦労していたことなど、津山藩の絵図作成の苦労の様子がわかります。

美作国内の領地には現在の愛知県豊田市の挙母藩や現在の茨城県土浦市の土浦藩など、遠方の藩の飛地。天領についても美作市の林野にあった倉敷代官所や兵庫県朝来市の生野代官の管轄地など多くの代官所の管轄地が入り組んでおり、それらをとりまとめて美作一国の国絵図を提出することは大変な作業であったと想像できます。

平成24年度 特別展

江戸時代の地図づくり

— 国絵図作成事業と津山藩 —

10月6日(土)～11月18日(日)まで

開催中です



ひとめず

江戸一目図屏風の 近日販売

一枚刷りを製作中です!

江戸一目図屏風の関連グッズとして解説本「江戸一目図を歩く- 歙形蕙斎の江戸名所めぐり-」、クリアファイルの販売中ですが、第3弾として江戸一目図屏風一枚刷りを近日販売いたします。

たて45cm×よこ90cmの大ききで表面には高精細の江戸一目図屏風を印刷し、裏面には江戸一目図屏風の解説を載せています。

価格等は未定ですが、近日中に販売が開始できるように製作中です。ご期待下さい!

津山景観図屏風を展示いたします。

〈展示期間〉11月21日(水)～12月16日(日)

津山藩のお抱え絵師の歙形蕙斎は「江戸一目図屏風」で江戸の町を描きましたが、津山の町の様子についても「津山景観図屏風」で描いています。

「津山景観図屏風」は六曲一双の屏風で左隻は春の季節で高野神社や二宮の松原などが描かれており、右隻は秋の季節で津山城を中心に城下町の様子が描かれています。

展示期間は11月21日(水)から12月16日(日)までになっております。この機会にぜひご覧下さい。



「津山景観図屏風」右隻



「津山景観図屏風」左隻

大

博物館だより

No.74

津博

平成24年10月1日

編集・発行：津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92

☎(0868)22-4567 ☎(0868)23-9874

E-mail: tsu-haku@tv.tn.ne.jp

印刷：津山朝日新聞社

～博物館入館のご案内～

- 開館時間：午前9:00～午後5:00
- 休館日：毎週月曜日・祝日の翌日
年末年始(12月27日～1月4日)・その他
- 入館料：一般 200円(160円)
高校・大学生 150円(120円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方・市内在住の65歳以上の方は、入館料が無料です。 ※()は30人以上の団体

大 は津山松平藩の槍印で剣大といい、現在津山市の市章となっています。